

口永良部島

1 火山活動度レベル

火山活動度レベルは2(やや活発な火山活動)でした。

2 概況

火山性地震はやや多い状態が続いており、火山活動はやや活発です。

3 噴煙活動の状況

監視カメラでは新岳・古岳からの噴煙は観測されませんでした。

4 地震・微動活動の状況(図2、図3)

- ・火山性地震の月回数は160回(1月:176回)とやや多い状態が続いています。
- ・火山性微動の月回数は2回(1月:1回)と少ない状態でした。

5 地殻変動(図6、図7)

GPS及び光波測距の繰り返し観測では、2005年9月までは新岳火口を中心に膨張傾向が見られましたが、2006年2月の観測ではその傾向が停止したように見えます。

6 熱観測(図5)

全磁力の繰り返し観測では、2005年9月までは新岳火口北側の観測点で全磁力が増加、南側の観測点で全磁力が減少し、新岳火口周辺の温度上昇が認められていました。しかし、2006年2月の観測では、その傾向は停止したように見えます。

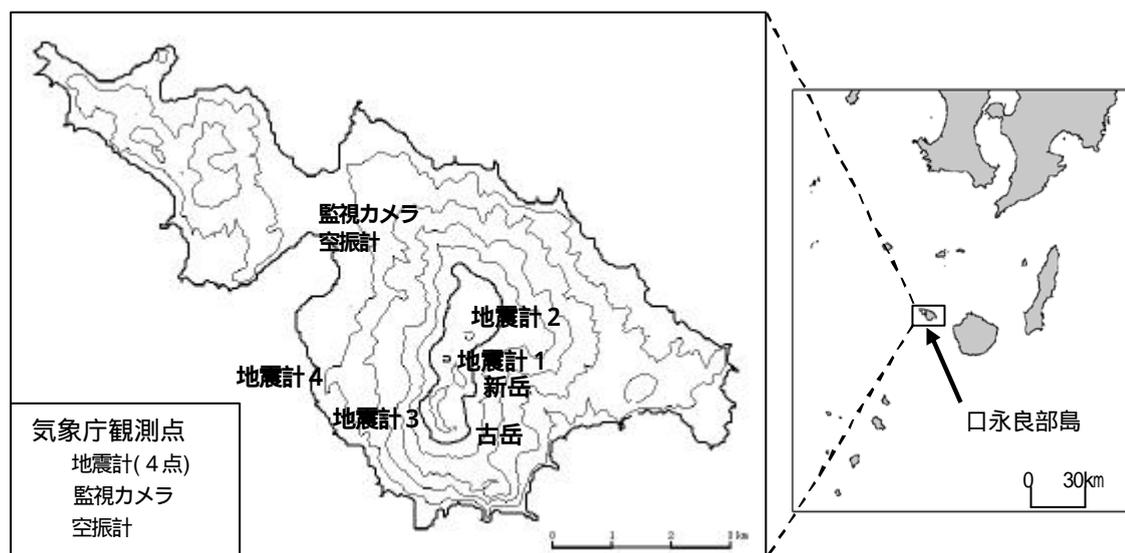
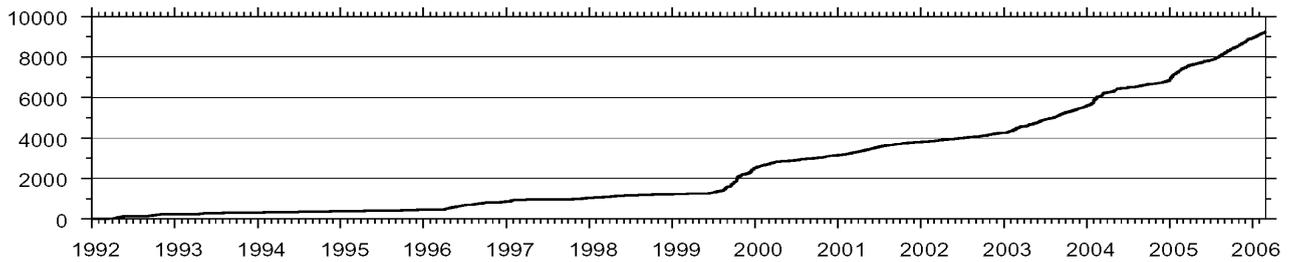


図1 観測点位置図

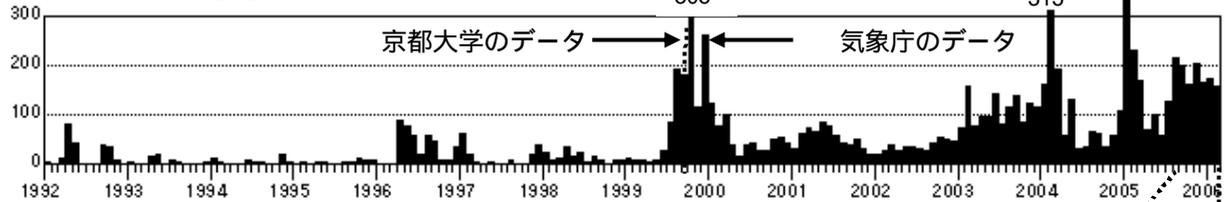
資料は、気象庁のデータその他、京都大学のデータを利用して作成しています。

また、地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。

回 火山性地震日別積算回数



回 火山性地震月別発生回数



回 火山性地震日別発生回数

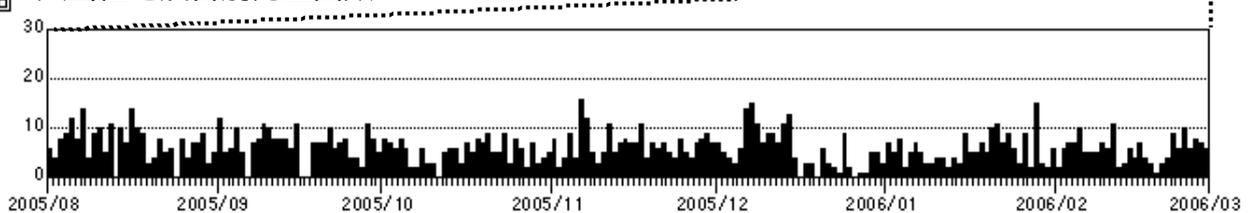


図 2 火山性地震活動経過図(1992 年 1 月 1 日～2006 年 2 月 28 日)

2005 年 7 月以降、火山性地震がやや多い状態で経過しています。また、2003 年 2 月～2004 年 5 月、2005 年 1～3 月にかけてやや多く発生しました。

・1992 年 1 月～1999 年 9 月 12 日及び 2005 年 12 月 15～28 日は、京都大学のデータを使用しました。

回 火山性微動日別発生回数

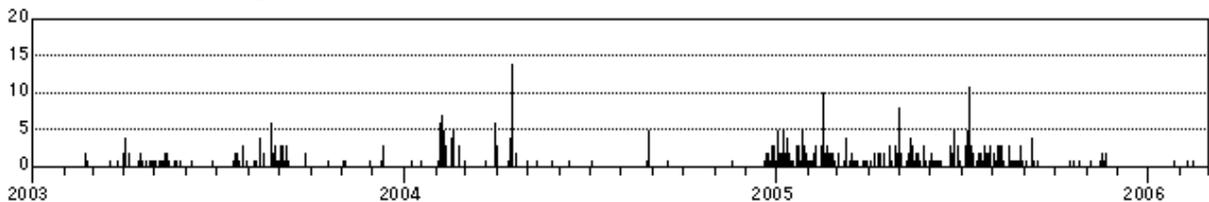


図 3 火山性微動活動経過図(2003 年 1 月 1 日～2006 年 2 月 28 日)

2004 年 12 月以降やや多い状態で経過していましたが、2005 年 9 月からは減少しました。

・2005 年 12 月 15～28 日は、京都大学のデータを使用しました。

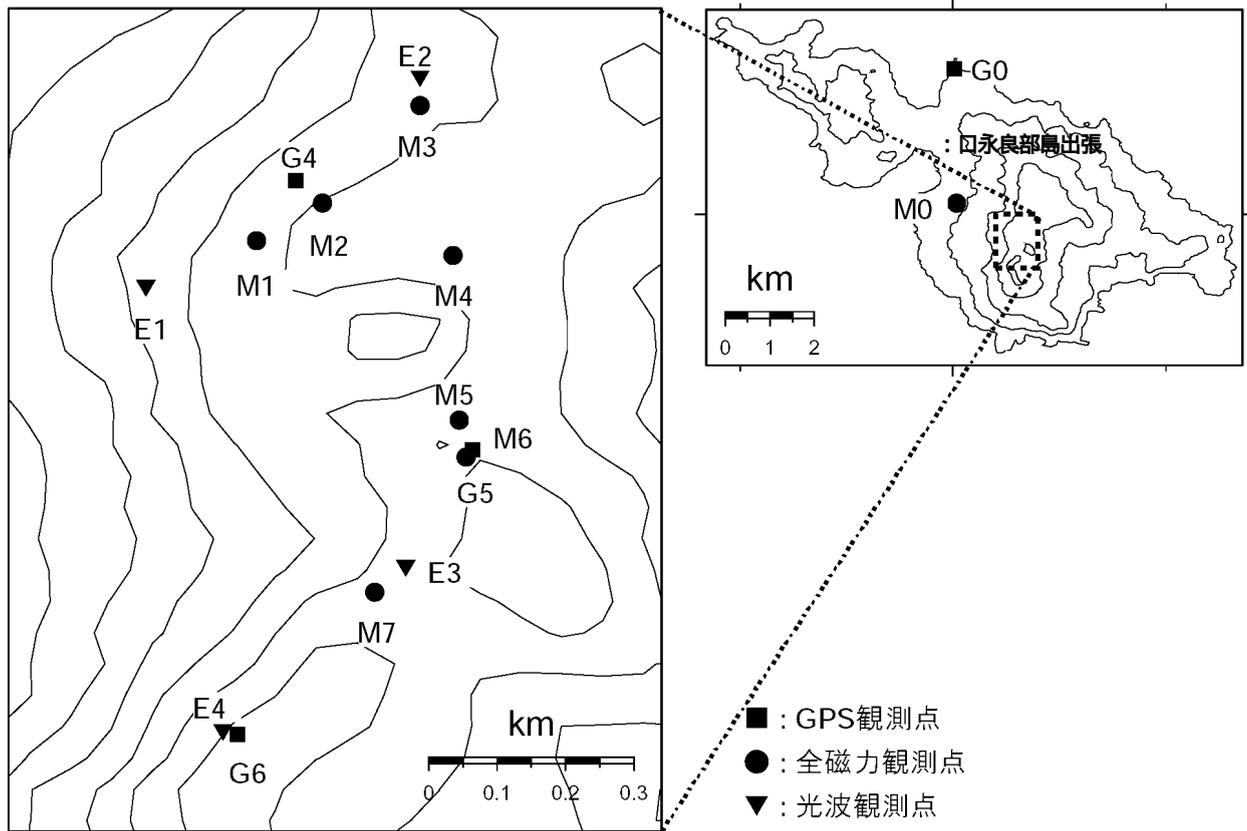


図4 GPS・全磁力・光波観測点配置図

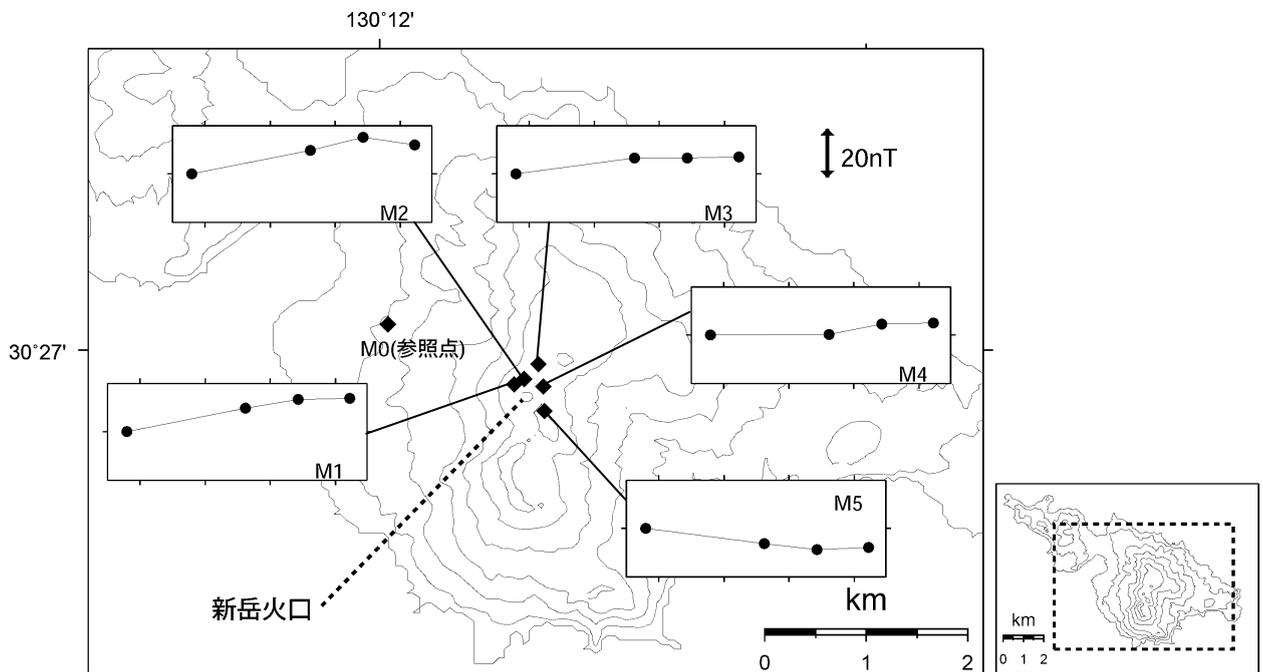


図5 全磁力繰返し観測結果(2004年5月~2006年2月)

2005年9月までは新岳火口北側の観測点で全磁力が増加、南側の観測点で全磁力が減少し、新岳火口周辺の温度上昇が認められていた。2006年2月の観測ではその傾向は停止したようにみえます。

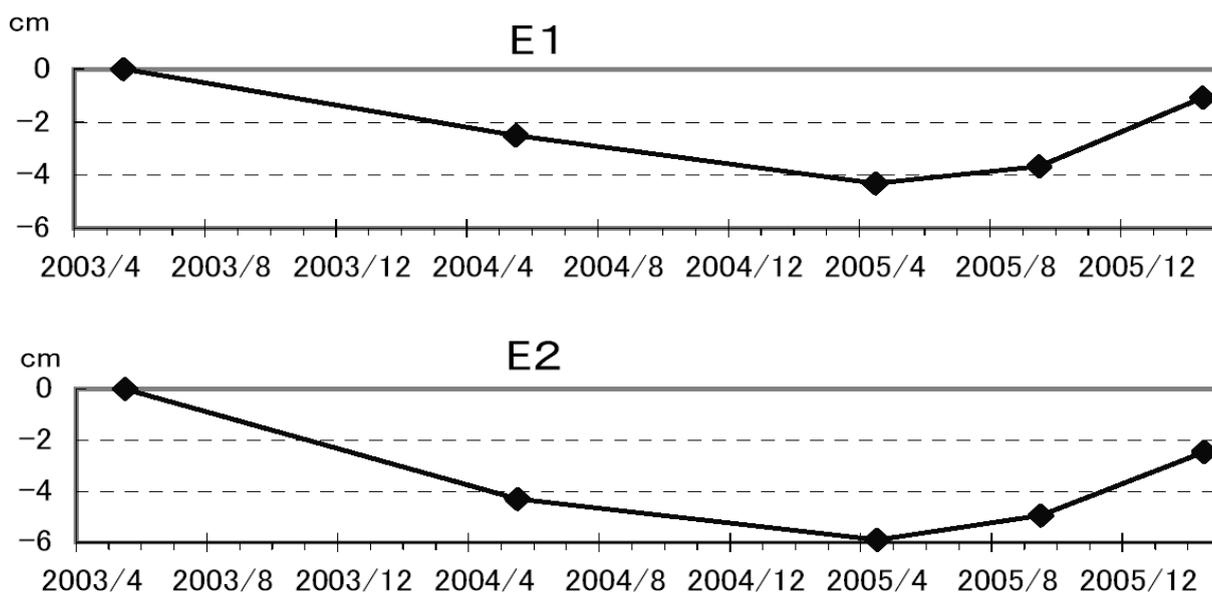


図 6 光波測距繰返し観測結果(2003 年 5 月~2006 年 2 月)

口永良部島出張所と山頂にある E 1 及び E 2 観測点間の斜距離は縮みの傾向が継続していましたが、2005 年 9 月以降は伸びの傾向となりました。これは、季節変動を含んでいるとも考えられます。

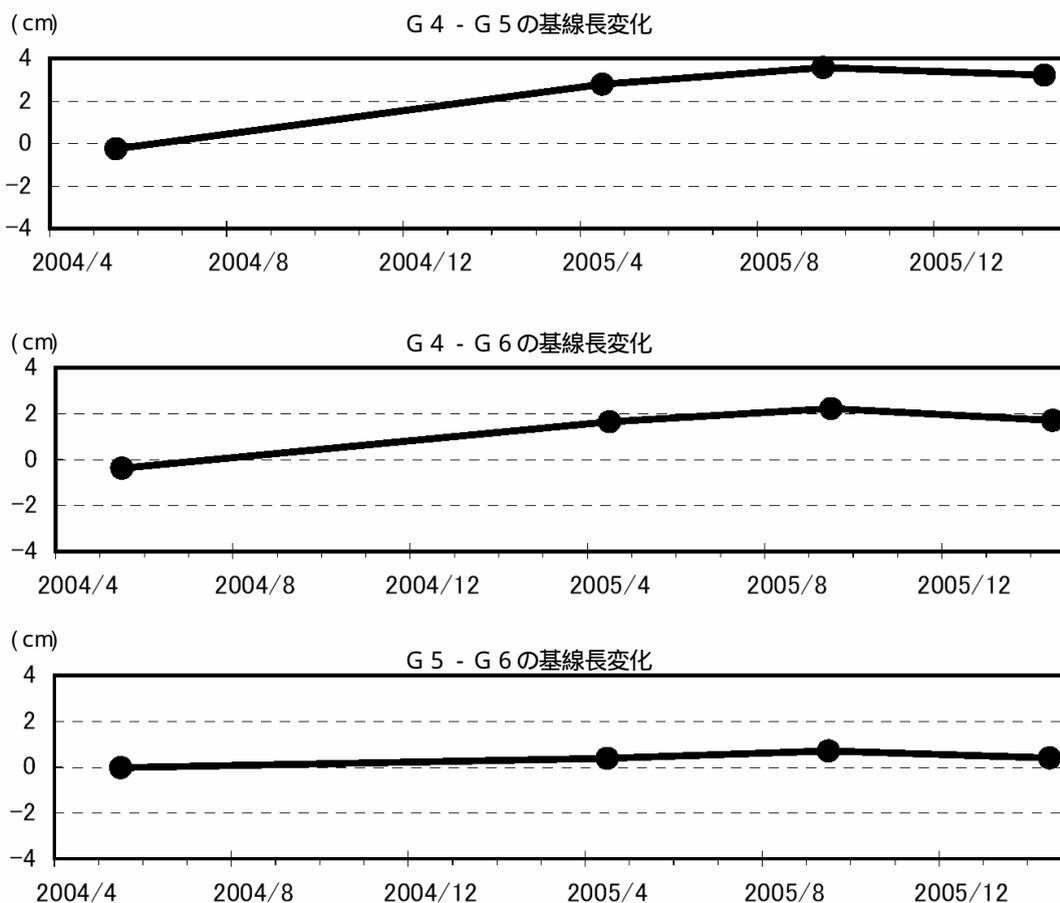


図 7 GPS 繰返し観測結果

2005 年 9 月までは、新岳火口を中心に膨張傾向が見られていましたが、今回の観測ではその傾向が停止したように見えます。